

校番	031	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	高等学校用
----	-----	----------	-------	------	---	-------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	松永高等学校	校長	山垣内 俊行	生徒指導主事	石田 達生
-----	--------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『遺芳祭（文化祭）』

取組のねらい『Pwoer of Smile ~ひとつになる時~』

皆で協力をして、何かをつくりあげる事により、集団としてのまとまりを高め、つくりあげる事の喜びや達成感を感得する。また、自己表現力の育成にもつなげる。

身に付させたい資質・能力

主体的に行動する力。

課題を発見し、解決していく力。

取組の具体的内容『ENNOSITA（縁の下）』

現在の文化祭実行委員はクラス企画での活動が中心となるため、全体運営まで関わるのが難しい。そこで生徒会執行部とともに文化祭のさらなる充実を図るため、全体運営に関わるスタッフを募集する。体育館入り口や館内の装飾を施す。アンケートを行い、新企画を立案する。スタッフシャツを作成。

文化祭ボランティア
ENNOSITA
募集開始!!

「やりたいこと」を「かたち」にする。

生徒会企画実現のための準備・文化祭を充実したものにす意見交流などを行います。

- 放課後の活動に積極的に参加する人
- 文化祭を盛り上げたいと思っている人
- 体を動かすのが好きな人

こんな人を持っています!!

募集人数 約30人

活動時間 平日の放課後

活動内容 会場の飾り付け 新イベントの準備





取組の課題・創意工夫『企画・準備・運営』

担当ブロックごとに人員を配置し、責任を持って運営を行うようにした。

生徒に企画書作成を義務付けた。

生徒全員にアンケートを取り、新企画を立案した。

初めての取組みであり、スタッフが十分に集められるか不安であった。今後も主体的に参加する生徒をいかに安定して集めることができるかが課題である。



取組の成果（効果）『行動させる』

教員の指示による運営ではなく、生徒自身に考えさせ判断させ行動させることで、年次の枠を超えた生徒同士のつながりが深まり、連帯感や達成感を得ることができた。また、身に付けさせたい資質や能力も徐々にではあるが高めることができている。

今後の展開『一般公開に向けて』

今回の行事をステップにし、校内のつながりに留まることなく、一般の方にも楽しんでいただける内容のものを企画し、地域の方との絆を含められればと考えている。年度ごとにレベルアップしていける生徒集団を育てていきたい。

他校へのアドバイス『月イチボランティア』

他校へのアドバイスではなく自校のもう一つの課題として、生徒同士のつながりが薄い現状の中で、いかにつながりを深めていくかが課題である。昨年度より始めた「月イチボランティア」を基盤により大きな輪に広げ、学校行事などを支える主体的な生徒会活動が本校の伝統となるよう願っている。

